

果樹類に発生する  
ハマキムシ類の防除に。

果樹の交信攪乱剤

# ハマキコン<sup>®</sup>-N

農林水産省登録：22378号

®:信越化学工業(株)の登録商標



## ハマキコン-Nの特長

- 性フェロモンの特異的作用によって対象害虫の交尾を連続的に阻害し、害虫の発生を抑制することを目的としています（直接の殺虫作用はありません）。
- 殺虫剤に抵抗性を獲得した害虫にも有効です。
- 天敵に対する影響は非常に少ないです。
- 本剤の有効成分は微生物により容易に分解されるため、環境にやさしい農薬です。
- 作物への残留も心配なく、作業者に対しても安全です。
- 天敵にできるだけ影響のない殺虫剤とハマキコン-Nの併用により、防除回数の低減が期待できます。



リンゴコカクモンハマキ(成虫)



リンゴモンハマキ(成虫)



チャノコカクモンハマキ(成虫)



チャハマキ(成虫)

## 果樹の交信攪乱剤

# ハマキコン<sup>®</sup>-N

農林水産省登録 第22378号

- 種類名：トートリルア剤
- 有効成分：(Z)-11-テトラデセニル=アセタート………69.4%  
(Z)-9-テトラデセニル=アセタート………13.7%  
10-メチル-ドデシル=アセタート………1.8%  
(Z)-9-ドデセニル=アセタート………3.7%  
11-ドデセニル=アセタート………1.8%  
(Z)-11-テトラデセン-1-オール………0.9%  
その他安定剤等………8.7%
- 薬剤量：150本当り54g
- 包装形態：100本入りアルミ袋、36袋/ケース

## 上手な使い方

### 1. 設置時期

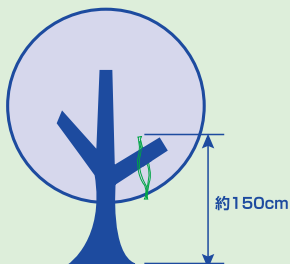
越冬世代成虫発生初期に設置してください。

### 2. 処理量

通常の場合、本剤を10アール当たり100～150本とし、圃場の立地条件（傾斜）、周囲の状況や風向き等を考慮に入れて、8割程度を圃場全体にほぼ均等に設置してください。残りの2割程度を圃場の周辺部に処理すると効果的です。

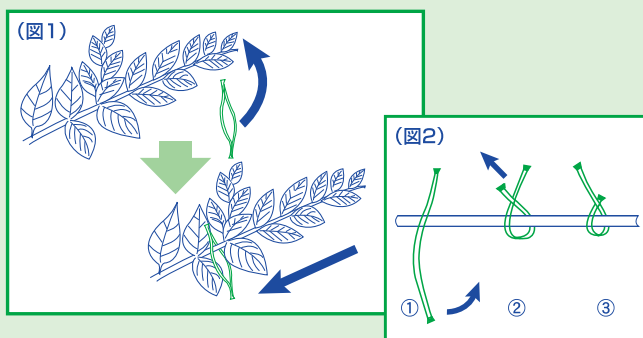
### 3. 処理位置

目通りの高さ（約150cm程度）に、なるべく圃場全体に均等になるように取り付けてください。但し、周辺部には高い位置に設置してください。また、樹高が不均一の場合もなるべく高い位置に設置してください。



### 4. 取り付け方法

細い枝では輪にして、輪の中を通すか（図1）、少し太い枝ではそのまま巻きつけてから、一端を輪の中にくぐらせて固定してください（図2）。（強く引っ張り固定すると、端が切れる恐れがありますので注意してください。）



### 5. 放任園・庭木対策

圃場周辺に無防除園や無防除樹があるか注意してください。ある場合は、あらかじめ防除を徹底してください。

## ハマキコン-Nの登録内容

（2016年10月現在）

作物名	使用目的	対象病害虫名	使用量	使用時期	使用方法
果樹類	交尾阻害	リンゴコカクモンハマキ ミダレカクモンハマキ リンゴモンハマキ チャハマキ チャノコカクモンハマキ	100～150本/10a (54g/150本製剤)	成虫発生初期～終期	本剤を枝にかける

上記以外に茶に適用があります。

## 使用上の注意事項

- 本剤は対象害虫の交尾を阻害し、幼虫の発生密度低下を目的とした交信攪乱剤ですので、成虫の発生初期からできるだけ大面積で一斉に使用してください。
- 急傾斜地、風の強い地域等本剤の濃度を維持するのが困難な地域では、効果が安定しませんので使用しないでください。
- 誘引剤（SEルアー）とは異なりますので、誘引や発生予察を目的としては使用できません。
- 外装のアルミ箔袋を開封したまま放置すると、有効成分が揮散するので、密封したまま冷暗所（5℃以下）に保管し、使用直前に開封して使い切ってください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病害虫防除所等関係機関の指導を受けてください。

○使用前にはラベルをよく読んでください。 ○ラベルの記載以外には使用しないでください。 ○本剤は小児の手の届く所には置かないでください。

本資料は2016年10月現在の知見に基づいて作成されています。